

【特別寄稿】 マダニによる感染症

(公社)日本ペストコントロール協会 元副会長 元木 貢

マダニというと犬を吸血する大きなダニを想像しませんか？マダニは4月から10月に小動物の「けものみち」にある植物の上でじっと待っていて、シカなどの動物が通ると吸着して長時間かけて吸血を始めます。普段は数ミリ程度ですが、満腹すると1cm以上にもなり釣り針のようになった口器がはずれ脱落します。吸血中は分泌液を出して痒くならないのでなかなか気が付きません。ヒトもむやみに藪にはいると吸着されます。

日本にはダニが媒介する感染症（ライム病や日本紅斑熱など）があります。ところが2011年に韓国でSFTS（重症熱性血小板減少症候群）が報告され、2013年、山口県で初めて確認されて以降、西日本を中心に2020年まで毎年60～100名程度の患者が報告されていました。その後2017年に東日本で初めて千葉県で患者が発生しました。本年8月現在、全国から報告された患者数は速報値で135人、おとし1年間の累計を上回り過去最も多くなりました。とうとう神奈川県、遠く北海道でも患者がでました。

主な初期症状は発熱、全身倦怠感、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）で、重症化し、死亡することもある怖い感染症です。ネコに咬まれたことが原因でSFTSウイルスに感染した事例が報告されています。また近年、イヌやネコといった愛玩動物からの直接感染を疑わせる事例も報告されています。

動物を飼育している場合、過剰な触れ合い（口移しでエサを与えたり、動物を布団に入れて寝たりすることなど）は控えてください。藪の中に入るときは、長袖・長ズボン（シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる）、足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくすることが大事です。服は、明るい色のものにするとマダニを目視で確認しやすくなります。服の上からDEET（ディート）やイカリジンなどの虫除け剤も有効とされています。また、屋外活動後は入浴し、マダニに刺されていないか確認して下さい。特に、首、耳、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏などがポイントです。マダニに吸血された場合には、無理に引き抜こうとせず、皮膚科などを受診してマダニを除去してもらってください。ダニに刺されて気になる症状が出たら、病院に行って医師に「ダニに刺された」と伝えてください。